

少子化に対応した 学校づくり 校区・統廃合の お考えと展望



野村議員



高石小学校

学校教育課長

今年度開催の土佐市立保育所・小中学校統廃合等検討委員会は、土佐

市の適正規模等含めて、意見をとりまとめ市長に報告する。複式学級は、新居小学校・波介小学校・北原小学校の3校にあり来年度は、戸波小学校も予定されている。校区変更の申請は、平成30年度34件、令

問 宇佐の高台移転、高岡の改築案が浮上した時から事業だけ進行している。学校、保育園をどうするかなど政策があり、事業が総合的にすすんでいくべき市長のリーダーシップのある答弁を求める。

和元年度28件(2月迄)ある。



すみれ保育園の登園

重要な課題、検討委員会のとりにまとめ大切に、次の段階の取組につまましては、条例設置等の検討組織設置等必要と想定。少子化の進捗、働き手不足等、喫緊の課題。次の段階には検討の中に一石を投じるなど踏み込んだ手法も必要と覚悟している。

板原市長

自治体新電力について お考えは

板原市長

自治体新電力と既存電力達先である四国電力と相対協議を行い、比較検討の結果、自治体電力への参加を見送り、四国電力と引き続き相対契約することが本市に有利と判断し、契約することとした。

問 地域医療構想

人口減、超高齢化2030年問題を見据えた土佐市民病院の医療供給体制などについての見解を問う。

西村病院事業管理者

人口減少等の影響はあるものの30分



圏内の需要は少なくとも2030年までは増加することが見込まれており、なくてはならない病院を指していく。